

北海道新聞

太陽光パネル付き防雪柵を開発へ 理研興業と北海道自然電力が業務提携

権藤泉 会員限定記事

2024年11月11日 19:52

あとで読む



業務提携を交わした理研興業の柴尾副社長（右から2人目）と北海道自然電力の滝口社長（同3人目）ら

防雪柵の開発や製造を手がける理研興業（小樽）と北海道自然電力（札幌）は11日、太陽光発電パネル付き防雪柵の開発や普及に向けて業務提携した。来年夏に酪農学園大（江別）の敷地内に試験的に設置し、2年後の実用化を目指す。

理研興業は防雪柵の国内シェア約70%で、4年ほど前から太陽光パネル一体型の製品開発に取り組んでいる。北海道自然電力は再生可能エネルギー事業などを手がける自然電力（福岡）の子会社として今年3月に発足。農地への設置を想定した垂直型太陽光パネルの実証事業を進めている。

共同開発する防雪柵では、発電した電気を販売するほか誘導灯や吹雪検知システムなどに活用。野生動物の忌避剤を使ったワイヤロープも取り付け。蓄電コンクリートを開発中の会沢高圧コンクリート（苫小牧）と協力して基礎部分に蓄電機能を持たせたり、国内のパネルメーカーと連携して耐久性向上を図ったりすることも検討する。

11日に開いた会見で、北海道自然電力の滝口直人社長は「再エネ事業は地域の人が恩恵を感じられることが重要」と強調。理研興業の柴尾幸弘副社長は「防雪柵の付加価値を高めたい」と述べた。

（権藤泉）